

篠原農林水産副大臣の WTO 非公式閣僚会合への出席について(概要)

平成23年2月

農林水産省

篠原農林水産副大臣は、1月28日(金)から30日(日)までの間、スイス・ダボスに出張し、WTO非公式閣僚会合(29日(土))及び G10閣僚会合(29日(土))に出席したところ、概要以下のとおり。

1. スイス主催非公式閣僚会合

(1) 出席国

スイス(アマン経済大臣[主催国])、日本(海江田経済産業大臣、篠原農林水産副大臣)、米国(カーク通商代表)、EU(デ・グフト貿易担当委員)、中国(陳商務部長)、ブラジル(パトリオタ外務大臣)、インド(シャルマ商工大臣)、豪州(エマーソン貿易大臣)、カナダ(ローン国際貿易大臣)、韓国(キム通商交渉本部長)など計23カ国の閣僚のほか、ラミーWTO事務局長、ウォーカー農業交渉議長など。

(2) 概要

- 2011年末までの合意達成に向けて意見交換。
- 篠原副大臣からは、
 - ・ 農業交渉については、世界各国の「多様な農業の共存」を可能とする貿易ルールづくりが必要、
 - ・ 我が国は、世界最大の純輸入国として、関税や国内支持の大幅な削減の議論に積極的に加わるなど、既に最大限の柔軟性を発揮してきている、
 - ・ 最終合意に至るためには、各国が抱える政治的に困難な問題を互いが理解・尊重し合い、全ての国が柔軟性を示すことが必要、
等について主張。

- アマン経済大臣が、議論の総括として、次のとおり会合の成果を取りまとめ。
 - ・ 交渉失敗のコストは余りに大きく、2011 年中にラウンドを終結すべき。このため、4 月までに全分野の改訂テキストを揃え、7 月までに実質合意を目指す。
 - ・ 各国閣僚が交渉官に権限を与え、交渉グループの議論と並行して、バイ・プルリの協議を加速するよう指示すべき。
 - ・ 今までに得られた成果を基礎として、全ての分野で野心の高い合意を目指してギブ・アンド・テイクの議論を進める必要。

2. G10閣僚会合

- 非公式閣僚会合に先立って G10閣僚会合を開催(篠原副大臣、スイス・アマン経済大臣、ノルウェー・ストーレ外務大臣、韓国・キム通商交渉本部長及びイスラエル・在ジュネーブ大使が出席)。
- 我が方から、各国のセンシティブティに配慮した貿易ルールの構築を目指して交渉する上で、G 1 0 の結束強化の重要性について発言。
- G 1 0 として、一致団結して戦略的に今後の交渉に臨むことを確認。また、以下の内容を含むプレス声明を発出。
 - ・ 2011年を機会の窓との認識の下、G10として早期妥結へコミット。
 - ・ G10は、交渉前進のために既に最大限の柔軟性を示して貢献。
 - ・ 安定化した論点のリオープンは避け、これまでの成果に基づき交渉。

(以 上)